

東北大学附属図書館報

木這子



BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

分館紹介

記念資料室

記念資料室は昭和38年（1963）に学内共同教育研究施設として設置され、現在では大正14年から昭和47年まで旧附属図書館本館として使用されていた片平キャンパスの「ネオ・ルネッサンス」様式の建物を利用し活動しています。元来、附属図書館とは別の機関ですが、その歴史は図書館と密接な関係にあり、かつては図書館内の一室を活動の拠点としていました。昭和61年、そのかつての地に今度は家主として移り、現在に至っております。

現在の記念資料室の活動は、大きく3つに分けられます。まず第一は、東北大学に関する歴史的資料・情報の収集整理・保存活動です。資料室はもともと『東北大学五十年史』（昭和35年刊）の編さん事業終了後、その調査の過程で収集した資料や情報をいかに後世に伝えるかという問題意識から出発した機関で、この「五十年史」を出発点としながら、その後毎年の停年退官教官をはじめ、多くの教職員・卒業生・学生への呼びかけを通じ資料収集を続け、現在では2万点を超える数の資料を収蔵するに至っています。資料は学内の公文書・写真を中心に、

教官の自筆原稿や受講ノート、寮や部の日誌、実験器具など多彩です。また、旧制二高や仙台工専・宮城女専など、戦後の学制改革で東北大学に包摂された諸学校に関する資料も収集対象にしています。

次に2番目の役割として、こうして集めた資料を、学内外からの利用者に情報として提供するという点があります。たとえば過去の教官の業績や履歴を知ることは現在の研究を進める上でも重要ですし、また過去の大学運営のありかたを知ることは現在の大学運営を進める上で参考となる場合もあります。このように、記念資料室には研究・管理運営双方の必要性から年間を通し様々な資料閲覧・参考調査の申請が寄せられ、現在進行中の『東北大学百年史』編纂にも大きな役割を果たしています。

第3番目の役割としては、収集資料をもとにした研究・教育活動があります。中でも、大きな比重を占めるのが展示活動です。現在、記念資料室2階の約400㎡弱を展示室として一般公開しており、昨年度は1300余名の来館者がありました。企画展示会を年に1回程度毎年開催し



ており、今年度も、明治以降の本学や包摂校における卒業式のありかたを、関連資料の展示を通じて復原する予定です。

さて、記念資料室では、英訳名を「TOHOKU UNIVERSITY ARCHIVES」と称しています。その「ARCHIVES＝アーカイブズ」とは普通「(公)文書館」「史料館」等と訳されますが、その目的は、様々な組織・個人の活動の過程で作られた記録資料を、当初の役割が終わったのちも保存し、歴史的資料として再利用をはかるという点にあります。オリジナルの資料を保存し展示公開するという点では図書館(Library)と異なり、むしろ博物館(Museum)に近いのですが、文書・写真を中心とする大量の記録資料を受入れ整理して閲覧利用に供するという面では、「モノ」の収集・展示を中心に行う博物館ともやや異なっています。欧米の大学では図書館・博物館とともにこうしたアーカイブズが設置されている例が多く、最近では日本でも増

えてきています。

記念資料室は日本の大学「アーカイブズ」としては早い事例といえますが、独自の施設を持って活動し始めたのはここ10年のことで、資料の保存・閲覧の環境など、今後早急に解決しなければならない問題が山積しています。その意味では、まだ発展途上段階にある機関といえるでしょう。

収蔵資料や調査成果などの記念資料室の活動を多くの方々に知っていただくために、本室では今年度から「東北大学記念資料室だより」の刊行を開始しました。今後、記念資料室の活動を意義あるものとするためにも、学内外を問わず積極的に本室をご利用いただき、そのあるべきかたちについて、皆様のご提言をいただければと思います。

なお、本年度の企画展を以下の要領で開催しますので、お誘い合わせの上ご来室ください。

1998年度 企画展

「卒業式に見る明治・大正・昭和」

期 間 10月27日(火)～11月13日(金)

(土・日は休館。ただし10月31日(土)・11月3日(祝)は開館。)

場 所 東北大学記念資料室

〒980-8577 青葉区片平2-1-1

電話：022-217-5040

入場料 無 料

学内キャンパス間文献複写（校費）サービスについて （Web 版学内文献複写）

1. 主 旨

学内に所蔵する資料の文献複写を、申込者が Web-OPAC(Web 蔵書検索)を介してオンラインにより申し込むことができます。従来、図書館・室に出向いて申し込んでいた方法にオンラインが追加されました。コピーは「受取窓口」(依頼館)で受け取ることになります。料金の精算は学内の予算振替で行います。

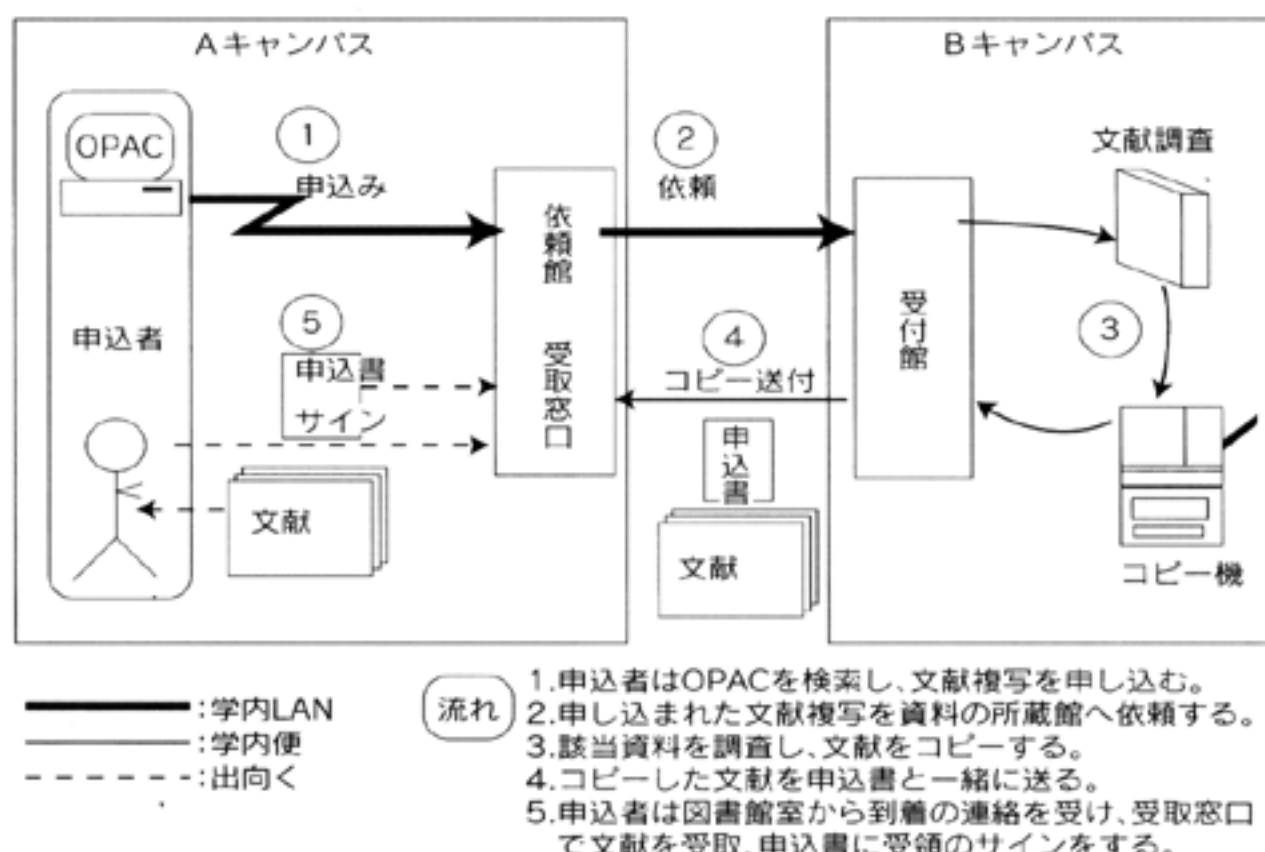
2. 実施時期

平成10年10月1日より

3. サービス対象者の条件

- (1) 申込者が校費利用可能で、校費振替依頼書を図書館に提出してあること。
- (2) 所属キャンパスの図書館(室)がオンラインによるサービスを行っていること。
- (3) 依頼する資料が、申込者が所属するキャンパスにないこと。

4. 申込みから受取りまでの流れ

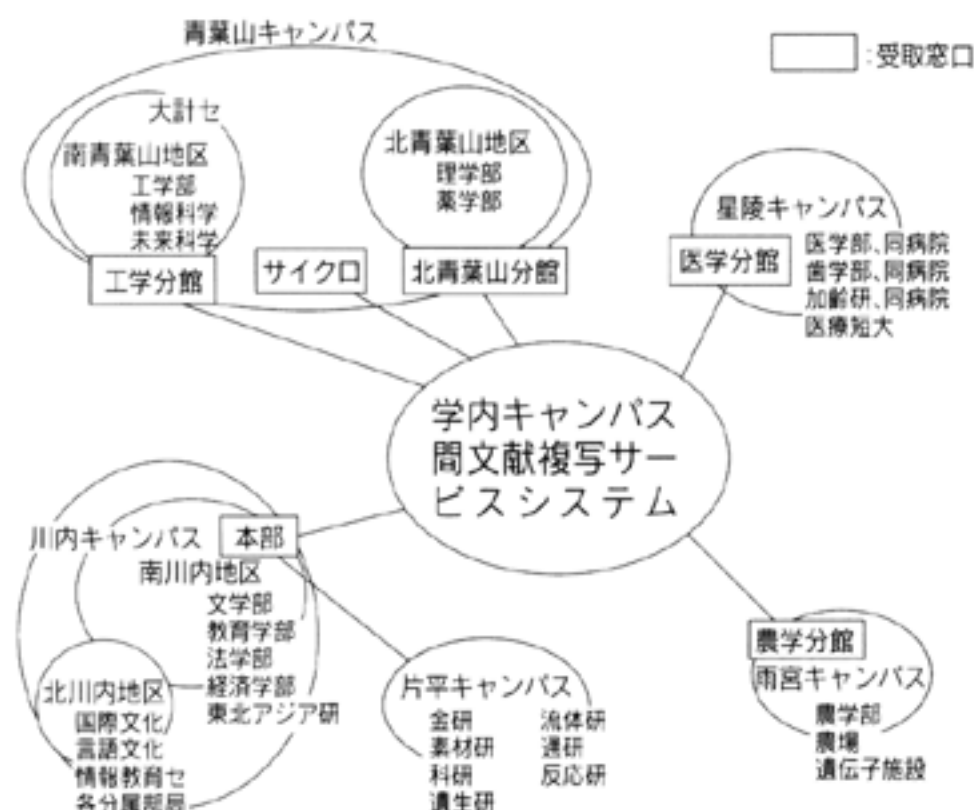


(注意1) 申込み状況照会に表示される「受取窓口」の図書館名はつぎのとおりです。

東北大=本館 東北大医=医学分館 東北大北=北青葉山分館
東北大工=工学分館 東北大農=農学分館

(注意2) 片平地区の金研, 素材研, 科研, 流体研, 通研, 反応研, 遺生研の「受取窓口」は「東北大」ではなく、各所属の図書室になりますのでご注意ください。

5. キャンパス



キャンパスは次の5つとなります。

1. 川内キャンパス
2. 星陵キャンパス
3. 青葉山キャンパス（北青葉山地区と南青葉山地区は同一キャンパスとなります。）
4. 雨宮キャンパス
5. 片平キャンパス

〔相互利用掛〕

— 常設の展示コーナーを開設しました —

附属図書館本館では、このたびエントランスホールに展示コーナーを新装・開設し、当館が所蔵する各種の蔵書を様々なテーマのもとに展示することにいたしました。

第1回のテーマは『怪の世界』とし、「妖怪研究書及び怪奇文学」「奇怪生物（天狗・人魚・河童など）」「幽霊（お岩・お菊など怪談のヒロインを描いた作品）」「妖怪（さまざまな妖怪が列をなして行く“百鬼夜行”の世界）」といった『怪』にまつわる図書を、当館所蔵資料の中から展示いたしました。

次回は、10月19日（月）から『書物の装幀－日本の書籍－』というテーマで卷子・折本・

旋風葉・疊物などいろいろな装幀のものを展示いたします。どうぞお楽しみください。



〔情報サービス課〕

平成10年度企画展 「東北大学附属図書館所蔵 貴重資料展」の開催について

この度、図書館では下記により資料展覧会を開催します。今回は、「東北大学附属図書館所蔵 貴重資料展」というテーマで、国宝2点をはじめとして、図書館が所蔵する貴重資料を多数展示します。

また、同時に本学東北アジア研究センター平川 新教授による記念講演会も開催しますので、是非ご来館ください。

記

○企画展「東北大学附属図書館所蔵 貴重資料展」

開催期間 平成10年10月30日（金）～平成10年11月6日（金）

開催時間 10：00～17：00

（但し、10月30日は14：00～17：00）

会場 東北大学附属図書館本館視聴覚室（1階）

（住所：仙台市青葉区川内）

展示内容 （1）国宝・中尊寺経・絵巻

（2）奈良絵本等

（3）近世東北の風景 ～近世紀行文より～

（4）近世仙台の名家自筆本

（5）伊達家関連史料

（6）武家文書の展開

（7）奥州大名家藏品 ～秋田家文書より～

秋田家伝来の典籍・古文書等

（8）特別展示 ～本館新収貴重資料～

ユークリッド「幾何学原論」、関流和算免許状

○記念講演会 「はじまりの伊達騒動 ～テキストに潜む虚偽～」

講師 平川 新（東北大学東北アジア研究センター教授）

＜多くの虚偽が入り交じる伊達騒動。記録・伝承に潜む虚偽を

見極めるところから、新たな伊達騒動の研究がはじまる＞

日時 平成10年10月30日（金） 15：00～16：30

会場 東北大学附属図書館本館2号館会議室（4階）

*<http://www.library.tohoku.ac.jp/>にも案内を掲載中

平成10年度システム地域講習会が開催された

附属図書館では、学術情報センターとの共催で、毎年システム地域講習会を開催しております。この講習会は、学術情報センターにおいても開催しているが、受講機会の拡大を図るため、全国10の地区で開催されているものであります。

本年度は、目録システム（図書コース、雑誌コース）講習会（目録システム業務担当職員にシステムの運用に関する知識・技術の講習）、ILL講習会（相互貸借業務担当職員にILLシステムの運用方法及び端末操作等に関する知識・技術の講習）並びにNACSIS-IR講習会（代行検索担当者及び情報検索サービス利用者に知識・技術の講習）の4つの地域講習会を対象としています。会場は、端末機を装備している本館2号館のシステム研修室を利用して行われ、講習期間が1～3日間の間に、それぞれの講習会の「システムの概論」、「端末操作解説」、

「システムの実習」の科目をカリキュラムに沿って、本館・分館の職員が講師・講師補助者となって、これまでの業務上の経験並びに最新の情報に基づき、受講者に懇切丁寧に分かりやすく講義・実習を行っておりました。

受講生は、東北地区の大学、研究機関及び高等専門学校附属図書館から推薦された図書館職員で、各講習会12名ずつが参加して行われました。

それぞれの講習会とも講師等の熱心な指導と受講生のまじめな受講姿勢が相俟って充実したものとなり、受講生からは感謝の意を述べた感想が寄せられております。

末筆ながら、担当された講師等の方々及びご協力いただいた館員各位に心からお礼申し上げます。

〔総務課〕



〔熱心な受講風景〕



〔修了証書が交付された〕

お知らせ

阿部文庫が本館に返却

去る9月9日、東北アジア研究センターから阿部文庫約5,000冊が附属図書館本館に返却されました。

阿部文庫は、「三太郎の日記」などで有名な元本学法文学部教授阿部次郎(明治16－昭和34)が昭和29年に設立した阿部日本文化研究所の旧

蔵書で、言語、思想、文学、美術、歴史など日本文化のあらゆる分野にわたる文献を収めています。

附属図書館ではこれらの資料を日本人個人文庫のひとつとして1号館書庫（地下2階）に配置し、整理が済み次第他の特殊文庫と同様の扱いで利用に供したいと考えています。

平成10年度大学図書館職員長期研修に参加して

情報管理課逐次刊行物掛 対 馬 庸 二

平成10年7月13日から7月31日まで平成10年度大学図書館職員長期研修に参加させていただきました。これまで研修を受講された方々から「夏の筑波は暑い」というご助言をいただき、寒冷地仕様である私はかなりの覚悟をもって“スーパーひたち”で茨城へ参りましたが、今年の異常気象が幸い(?)し、涼しい日々が続き、私に限らず安堵を覚えた方も多いようでした。しかしながら、西南日本から御参加の皆様は一樣に寒いと思われていたようです。

時節柄、旬の話題は「電子図書館」ですが、研修内容は必ずしもテーマは電子図書館に限定されず、電子図書館という話題を包括しながらも図書館サービスについての種々の講義があり、自分が何を考え、何をするのか、ということ意識する必要があることを強く印象づけられました。

「電子図書館」は避けて通れない話題であり、今回の研修においても「グループ討議」のテーマとして各班に「電子図書館」というキーワードが含まれておりました。しかしながら、研修参加者の「電子図書館」に対する概念が一樣ではなく、所属している図書館の事情、また、個人的考えなど、多様な局面を持っているようです。殊に私が参加した班は「情報発信」というテーマでしたので、今の図書館資源の中での「情報発信」の可能性等に対して明確な意識の違いが

浮き彫りになり、図書館における「電子図書館」化に対する混乱が少なからず存在することが感じられました。

国立国会図書館では、大学図書館ではあまり目にすることが無い、保存のために修理されている方々の“職人技”を拝見し、驚きと感動を覚え、大学電子図書館という時代ではありながら、「本」という「物」に対する強い思い入れを感じたり、また、国文学研究所において行われている、システム（プログラム）ではなく、データが財産であるとの方針による、汎用性の高いSMGLでのデータ管理についての説明など、各所での見学は非常に興味深いものばかりでした。

日常の仕事の中で忘れがちになることを再認識したり、また、Off Timeには、それぞれの図書館の方に愚痴に近い現況を伺ったりと、大学図書館で働く者としての見識を広めるために非常に恵まれた時間を与えて頂きました。この度の研修を糧にして、これから仕事をして行く中で、自分のできる限り、情報サービスの充実に役立てるよう努力して行きたいと思っております。

この度、私に研修に参加する機会を与えて頂きました皆様にこの場を借りまして感謝申し上げます。

(つしま・ようじ)

平成10年度情報処理軽井沢セミナーに参加して

総務課システム管理掛 照 内 弘 通

8月10日から14日までの5日間、学術情報センター「情報処理軽井沢セミナー」に参加させていただいた。このセミナーは今年度初めて試行的に実施されたもので、Java言語というプログラミング言語を、演習を中心に学習するという内容だった。この言語は次世代ネットワークコンピューティングの基本言語と考えられているもので、いくつかある特徴の一つとして、WWW上で動作するプログラミング開発が可能などが挙げられる。Javaで記述すると絵が動くアニメーションのページを作成したり、マウスの操作に対応して画像に一定の動きをさせたりできるのである。

会場は軽井沢の「国際高等セミナーハウス」（通称：猪瀬ロッジ）で、4泊5日の合宿生活であった。施設の宿泊定員が10名であるため、募集定員は7名という少人数であったが、全国から40名を超える応募があったそうなので、今回参加できたことはたいへん幸運であったといえる。研修生の内訳は大学図書館から4名、大型計算機センターなどから3名で、これまで受けた大人数の研修とは異なり、各人との交流を深めることができた点で新鮮であった。

カリキュラムの1日目には、午後からオリエンテーションを経て、早速Java言語の基礎について中身の濃い講義があり、17時過ぎまで続いた。そのあとは19時まで各自の仕事に関するプレゼンテーションが行われた。

2日目の内容は、クラス定義、オブジェクトの生成、クラスの継承など。3日目は、インターフェイス、文字列クラス、例外処理などの講義・演習のほかに、日本サン・マイクロシステムズ社によるJavaの実用面について特別講義があった。

そして、4日目午前中のスレッド、入出力の

学習で一通りの基礎を終え、午後からはアプレットの作成でWWWへの応用を学んだ。最終日はネットワーク機能の学習と演習問題の残りを中心に進められた。

講義のほとんどは会津大学の池田誠教授によって行われた。先生の解説は図解を中心とした丁寧なもので、講義と演習を小刻みに繰り返しながら進められ、とても理解しやすかった。正味4日足らずで盛りだくさんの内容をこなすのはなかなか大変なもので、先生の講義にも熱が入り、休み時間もほとんどない状態だった。そして私たち研修生もみな、午前1時頃までセミナー室や各自の部屋で復習したり、演習問題を解いたりした。

このセミナーの受講条件として、C言語プログラミングの経験が求められていたのだが、私はC言語の基礎を独習していたとはいえ、実践経験が希薄であったため、演習問題を解くのはかなり難儀した。これを機に演習を重ね、この研修で得た成果をむだにしないよう努力したいと考えている。

東北に梅雨明けの発表がなかった今年は、仙台も涼しかったので、避暑地軽井沢のありがたみも半減といった感じではあったが、周囲が一面の林であったり、朝は小鳥のさえずりで目が覚めるなど、すばらしい環境の中で過ごすことができたのは得難い経験であった。一方、そのようなわけで近所には店もなく、ロッジでは朝食しか出ないため、学情センター研修課の方には、宅配弁当の手配やカレーライス作りなど、特に食事の面でお世話になった。

最後に、セミナーの実施に携わった学術情報センターの方々と講師の先生方、そして参加の機会を与えてくださった職場の皆さまに心より御礼申し上げたい。

（てるうち・ひろみち）

平成9年度参考図書購入報告

参考図書類（文部省参考図書購入費，本学共通費，川内地区部間共通費等）により平成9年度購入し，本館レファレンス・コーナーに配置した参考図書のうち主な資料を下記のとおりお知らせします。

◆和 漢 書◆

1. 大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録 人名編，件名編，件名総索引，追補
2. 会社年鑑 1998年 上場会社版 全2巻
3. 学術雑誌総合目録 和文編 1996年版 全8巻
4. 近代日本社会運動史人物大事典 全5巻
5. 近代雑誌目次文庫 第29～33巻
6. 研究者・研究課題総覧 1996年版 全9巻
7. 国立国会図書館蔵書目録 平成3年～7年（第3編～第9編，著者名索引，書名索引）
8. 雑誌記事索引集成 明治・大正・昭和前期（第61～70巻，別巻1）
9. 人事興信録 第39版（上・下）
10. 全国各種団体名鑑 1997年 全3巻，別冊
11. 全国試験研究機関名鑑 1997/98年版 全3巻，別冊
12. 著作権台帳 文化人名録 第24版 本編，索引・資料

◆洋 書◆

1. American Book Publishing Record Cumulative.1996.2 Vols
2. Books in Print. 1997/1998. 9 Vols
3. Comprehensive Dissertation Index Supplement.1995. 5. Vols, 1996. 5 Vols
4. Contemporary Authors. Vol. 154-159
5. Deutsche Biographische Enzyklopädie. Bd. 5-7
6. Deutsche Nationalbibliographie und Bibliographie der im Ausland erschienenen deutschsprachigen Veröffentlichungen. 1986-1990. Teil 1. Bd. 1-12, Teil 2. Bd. 1-16,
7. Encyclopaedia Indica. Vol. 11-20
8. Les Livres Disponibles.1998. 6 Vols
9. Subject Guide to Books in Print. 1997/1998. 5 Vols
10. The Serials Directory. 1997. 5 Vols
11. Whitaker's Books in Print. 1997. Vol. 1-5, 1998. Vol.1-5
12. Who's who in America. 52nd ed. 3 Vols

◆その他主な継続受入資料◆

1. 国立国会図書館所蔵洋図書目録
2. 国立国会図書館国内逐次刊行目録
3. Commonwealth Universities Yearbook.
4. IBN:Index Bio-Bibliographicus Notorum.
5. Internationale Bibliographie der Rezensionen Wissenschaftlicher Literatur.
6. Internationale Bibliographie der Zeitschriftenliteratur.
7. International Who's Who.
8. Social Sciences Citation Index with Abstracts.
9. Ulrich's International Periodicals Directory.
10. Verzeichnis Lieferbarer Bücher.

会 議

◎学 内

10.7.1 平成10年度分館長会議

○協議事項

- (1) 平成10年度図書館資料費予算（案）について

○報告事項

- (1) 平成10年度図書館運営費（共通経費）について
- (2) 平成11年度概算要求について
- (3) 第45回国立大学図書館協議会総会について
- (4) 企画展の開催について
- (5) 各分館の状況について
- (6) その他

10.7.21 記念資料室運営委員会

10.7.24 平成10年度第2回川内地区図書委員会

○協議事項

- (1) 平成10年度に係る諸経費の分担額について
- (2) 特別図書購入費選定額の算出方法について

○報告事項

- (1) 平成10年度大型コレクション収書計画調書の提出について
- (2) その他

10.7.8 平成10年度附属図書館商議会

○協議事項

- (1) 「東北大学附属図書館商議会規程」の一部改正について
- (2) 電子情報データベースサービスに関する検討委員会委員の選出について

○報告事項

- (1) 平成10年度図書館資料費の配分額について
- (2) 平成10年度図書館運営費（共通経費）について
- (3) 平成11年度概算要求について
- (4) 第45回国立大学図書館協議会総会について
- (5) 企画展の開催について
- (6) 奨学寄付金の受入について
- (7) 各分館の状況について
- (8) その他

◎学 外

10.9.17 東北地区大学図書館協議会総会

～9.18 （於：青森厚生年金会館）

編 集 後 記

皆さんにとっては、平成7年1月の神戸大震災の記憶はまだ生々しく残っているところであると存じますが、仙台でも9月に入ってから、台風の影響更には震度4の地震があり災害が起きております。

神戸大震災以来、各国立大学におかれましては災害に対応するため、防災規程並びに緊急連絡網の検討・整備が行われ、かつ防災訓練も行われていると思われますが、しかし、このように整備されていても常に職員個々人が防災に対する意識を持ち、対応できるようにしておく必

要があります。特に、大学図書館では時間外開館をしている最中に災害が起きると、職員が手薄であるため、何等対応もできないまま利用者までも巻き込んでしまい、大災害になる恐れがあります。

従いまして、改めて防災体制の見直しを行い、防災訓練にしても利用者と一緒に訓練することもありますし、防災に対するマニュアル等を作成し職員に配布するなど、瞬時に災害に対応できるよう検討する必要があると感じられます。

東北大学附属図書館館報「木這子」 第23巻第2号（通巻83号）発行日 平成10年9月30日

発行人 辻 英雄 広報委員長 谷内 聡

発行所 東北大学附属図書館 仙台市青葉区川内 電話 022-217-5910